

風土記の丘の花だより²¹³

今、そしてこれから見られる植物 (2023年11月25日)

早いもので、来週からはもう師走、12月ですね。一年は本当にあっという間です。先日、かつらぎ町にある酒殿神社のイチヨウを見に行きましたが、見事に裏切られ、きれいな黄緑色でした。でも今頃はきれいに色づいているのかも知れませんね。(今年は植物もちょっとヘンです)



谷山家住宅の南で独特の香りがすると思ったら、ハマヒサカキが満開でした。主に海岸に生える木なので、強い日差しや強い浜風に耐えるために葉が厚くつやがあります。谷山家は漁家ですから、いくつかの海辺に生える植物を植栽しています。お墓参りに使うヒサカキと同じ仲間ですが、生える環境で姿形がずいぶん違いますね。ただ、香りはよく似ていて、一種独特です。道を隔てて大池を眺めるためのベンチに行く所にもたくさんのハマヒサカキが植えられています。



冬を代表する花木の一つサザンカがあちこちで咲いています。「さざんか、さざんか 咲いた道 たき火だ たき火だ 落ち葉たき・・・」という童謡はおなじみですね。写真は白ですが、ピンク色や、まだらのもの、花の大きさも大小様々な品種があります。よくツバキと混同されますが、花が花ごとボトンと落ちるのがツバキ、1枚ずつペラペラと散るのがサザンカです。漢字で書くと「山茶花」どう読んでも「さんざか」ですよ。それがいつの間にか「さざんか」になったのでしょうか。



安藤塚のイロハカエデが色づきはじめ、赤・黄・緑が混じり合っとてもきれいです。今年は寒くなったり、暖かくなったりできれいに色づいていませんが、しばしの間、短い秋を味わいましょう。モミジは漢字で「紅葉」と書くくらいで、葉が赤く色づく木の総称です。ですから、この木はイロハモミジではなく、イロハカエデと呼ぶのが正しいのですが、まあ、きれいならどちらでもいいんじゃないですか？



入り口の坂の左側に背の高いコウテイダリアの花が咲いています。コウテイは「皇帝」のことで、学名の *Dahlia imperialis* (ダリア インペリアリス) の直訳が和名になっています。中南米あたりが原産の植物です。このごろ郊外の畑などでよく見かけるようになりましたが、少し前までは珍しく、開花するとたまにニュースにもなっていました。とにかく大きくなるので、狭い所では育てにくい花です。茎をさして増やすことができます。 松下